



長期留学体験談（中国語圏）

2020年度 輔仁大学（台湾）

R.S.(日本語日本文学科 2020(R2)年度留学)

私の留学は最初に大きな決断を迫られました。台湾は感染者が少なくコロナ封じ込めに成功した国と言われていましたが、コロナ禍で外国に残る留学生は少なく、7割の留学生が母国に帰って行きました。周りの留学生がだんだん帰国していく中、地元のご老人に「外国人は、国に帰れ」と初めて人種差別を受けたことで心が折れそうになりました。しかし日本に帰る事を決断してしまうと、この先いつ留学できるか分からない状況だったので、今しかできない経験をしたいという思いから、留学の継続を決意しました。

大学生活が始まると、共同生活、異文化交流で様々な国の文化や価値観に触れることが出来ました。特に、台日文化比較という授業では、台湾と日本の学生同士でグループになって自国の歴史や教育制度、食文化について話し合い、互いの国の認識を新たにすることが出来たので視野を広げる事が出来ました。また新学期には、思い切って台湾の管弦楽社に入部を決めました。当初は、音楽専門用語などの中国語が分からない事が多く心細い思いをしましたが、分からないときは周りの台湾人に教えてもらいフォローしてもらったので、一度も休まず楽しくやりきることが出来ました。最後には管弦楽社の定期演奏会で一緒に演奏して一つのイベントを達成することができたので、積極的に挑戦しに行き行って良かったと思っています。

一年間の留学を振り返ると、日本の事を話す場面が多かった為、自国を客観視するきっかけになり、自分の中にある当たり前の意識が海外に出れば一つの個性であることに気付き自分と向き合う時間になりました。さらに台湾に住んで、外国人の立場を経験できたことで、外国人が最新の情報を手に入れることの難しさを痛感しました。今後は日本に滞在する外国人に情報を早く届ける支援をすることで留学経験を活かしたいと考えています。

今年は、コロナで例年と大幅に異なる留学生活を送る事になったためイレギュラーなことが沢山起きましたが、厳しい場面を乗り越え発揮できた地力に自信を持てるようになりました。コロナ禍で留学を成し遂げ、困難を乗り越えた経験は私の人生の一翼を担うと思います。

2019年度 輔仁大学（台湾）

M.K.(国際交流学科 2019(R元)年度留学)

寮は4人部屋で、ルームメイトは私を除く3人が台湾人でした。最初は彼女たちの質問に答えるばかりでしたが、次第にこちらからも積極的に質問するようになりました。ルームメイトとは、ご飯と一緒に食べに行ったり、夜中まで話したりして、とても仲良くなりました。

あまり積極的な性格でない私でしたが、4ヶ月の留学を通じて行ったたくさんのチャレンジと、台湾で言語を学ぼうとしている学生たちの積極的な姿勢から受けた刺激で、言語だけでなく人間的にも成長することができたと思います。この有意義な時間を今後の私の人生で何かに迷った時に思い出してより良い決断ができればと思います。

2019 年度 輔仁大学 (台湾)

N.S.(国際交流学科 2019(R元)年度留学)

積極的に台湾人学生と直接話すことはもちろん、また SNS を使ってコミュニケーションをなるべく中国語で取るように心がけていました。文化は授業や日々の生活を通して触れることができたと思います。また政治についてはちょうど 1 月に台湾総統選挙があり良い時期に留学できたのではないかと思います。学生は皆投票日が近づくほどその話ばかりしていて SNS や実際に学生と話すことで政治に対する若者の考えを知ることができました。現地で生の声を聞くことができたのはとても貴重な経験だったと思います。

2020 年度 文藻外語大学 (台湾)

M.Y.(英語英文学科 2020(R2)年度留学)

私は 2 月から 6 月の半年間留学をしました。私が行った文藻外語大学は、台湾の南部に学校があり、今年初めての交換留学先で、情報も少なく 0 からのスタートでした。台湾にも行ったことがなかったため、行く前から楽しみにしていました。

私が行く頃は、コロナウイルスが日本で広まり始めた時でした。台湾はコロナウイルス対策が万全で 5 月から感染している人がいなくなりました。そのため、安心して生活出来ました。同じ大学から、行く子もおらず、日本人も多少はいるのか、台湾の生活とはどういったものなのか、など到着してから日本にいる頃には感じ無かった不安を感じました。しかし、不安に感じた生活も、学校に行くと日本人もいたり、バディの子が助けてくれたりと不安が一瞬にして無くなりました。せっかく留学に行けたのだから、台湾人や外国人と関わろうと思っていました。しかし、学内寮に住んでいなかったため、なかなか知り合いが増えなかったり、お店に行っても英語が伝わらなかったりと四苦八苦しました。少しは日本人と触れる機会があると、心の余裕が生まれました。仲良くなった日本人と台湾人と旅行に 2 度も行きました。

中国語は聖心の大学で、2 年間勉強しただけでした。元から中国語が得意というわけではなかったのですが生活していくうちにもっと知りたい、学びたいと思うようになりました。それは台湾人が留学生にも手厚く歓迎してくれた姿を見て感激したからです。文藻外語大学は外国語を学ぶ大学として有名で、日本語を学んでいる学生も多くいました。留学生のための教室もあり、そこには必ず現地の学生がいるため、わからないことがあれば聞ける場所があったのも良かったです。一人暮らしや外食文化に初めは慣れませんでした。友人が出来て生活にも慣れて、あっという間に時間が過ぎていきました。

中国語のクラスは多国籍で、同じクラスではロシア人、韓国人、フランス人、イタリア人、ベルギー人、ドイツ人など留学に来ている外国人も多かったです。英語も学びたかった私にとっては、中国語も英語も使って毎日過ごせたこともあり充実していました。学校の授業もちゃんと内容についていけるかなど心配になりましたが、周りとの協力していくことで学ぶことが出来ました。中国語は毎日 3 時から 5 時まで行われていたので、中国語を学ぶ時間が沢山ありました。5 日のうち先生が 2 人いる

ので、進みもゆっくりでした。先生も台湾人で、オール中国語の為、聞き取ることも難しかったです。聞き取りたいと思えばより勉強するモチベーションが上がりました。

この6か月間は、今までにない程内容が濃く、楽しく、辛い経験をしました。辛い悲しい経験も周りに助けられ前に進んでいけることが出来ました。どの思い出も過ぎ去ると、再び繰り返すことのできない経験でした。出会えた友人、環境がとてもよく毎日が本当にあっという間に過ぎました。この経験を通して、台湾の国柄、文化についてだけでなく多文化についても比べながら学べました。この経験から、多国籍文化について考えることが増えました。これらの経験から、日本での生活にも活かしていきたいと思います。

この留学を経験して、皆さんに伝えたいことがあります。それは第二外国語を選んだ先の大学でも充実した体験が出来るということです。やはり留学というと、アメリカ、カナダ、オーストラリアなどが挙げられます。しかし、アジアへ行っても英語も学ぶこと身をもって実感しました。以上の私の体験が少しでも参考になればと思います。